

9月11日(金) 研究発表1 第4室 (R204)

日本語の構造と日本人の論理 vs. 英語の構造と英米人の論理

Structural Differences in Japanese
and English Which Affect Thought Patterns

高柳文江 (日本大学)

Fumie Takayanagi (Nihon University)

益々のグローバル化の進展で、地球の物理的距離は狭くなり、世界中の人々との接触が日常化してきている。高度情報化社会の中で、人々は情報を正確に、かつ迅速に理解することが要求される。この事は、リングフランカとしての英語教育の重要性が大であることを意味する。問題の所在が明らかであれば、従来の英語教育のアプローチは再検討されるべきである。思うに、英語教育は1つのアポリアでは扱えず、また、言語諸技能の有機的関連性により、総合的、統合的、かつ、よりコミュニケーションタイプなアプローチがとられるべきであろう。かかる認識をベースに本発表は、次の観点から行ないたい。

言語は、人間の考えを伝達する1つの手段として発達してきた。それゆえ、言語はそれを使う人々の思考方法、論理形態に最も適するように発展を遂げてきたであろうし、同様に、人間の思考、論理は使う言語により大いに影響を受けてきているであろう。両者には密接な相互関係があるはずである。むしろ広義の文化に規定されることは言わずもがなである。

我々は、日常、言語を意識せずに読んだり、書いたり、話したりしている。こうした反復の過程で潜在的に言語の持つ構造、文字、音声に刺激を受け、無意識のうちに自身の思考形態を形成してきているのではないであろうか。言語が人間の思考に及ぼす影響は、構造的なもの、音声的のもの、視覚的のものによるものと広範囲にわたるが、言語構造は、特にその言語を使う人の発想、思考を左右している。ここでは、日本語と英語の持つ構造に的を絞って、対比しながら、それが日本人、英米人の思考や論理形態にどのように作用しているかを検証したい。

日本語は、構造的に左枝分かれ言語 (Left-branching language) であり、求心的な言語であると言われる。一方、英語は右枝分かれ言語 (Right-branching language) であり、遠心的な言語であると論されている。(大津栄一郎「英語の感覚 上」岩波新書 1995年 pp. 82-113 参照) こうした構造上、日本語では大事な要素は文末に現れる。文章が普通文であるのか、疑問文であるのか、また、肯定文であるのか、否定文であるのかも文末で決定される。一方、英語においては大事な要素は、文頭の部分で示され、その文章の形態も最初から決定される。従って、文章を発する以前に伝達者の意志は決定され、途中で疑問文を普通文に変更したり、最初の意向を変えることは難しい。日本語においては、疑問文のつもりが普通文になったり、途中で意向を変更することは可能である。英語は最初から定まった方向へ一直線に進むが、日本語においては最後まで曖昧さを残す。

こうした文章構造の相違は、論理の展開にも大いに影響している。日本人は、日本語の持つ左枝分かれ構造の枠の中で論理を組み立てていく。「こうであるからして、結論はこ

9月11日(金) 研究発表1 第4室 (R204)

うである」と論理を進めるのが日本的論理の展開である。英米人は、英語の持つ右枝分かれ構造のもとで論理を組み立てるので「結論はこうである。なぜなら、こうであるからだ」と論理を進める。言語の構造上やむをえないこうした論理展開の相違は日本人の自我についての意識と、英米人の自我についての意識にも影響を及ぼし、異なる認識過程、異なった文化を造り出している。

日本人は、英語さえ話せば英米人が自分達の言い分をわかってくれると考える嫌いがある。しかし、英米人には日本人が何を言っているのか分からないと言われることもあるし、日本人にも英米人の言い分が理解できないことがある。これはその根本にある英語と日本語の思考方法の相違に起因すると考えられる。日本人は、日本語的感覚で英語を解釈しようと試み、英文のエッセンスをつい見逃してしまったりもする。このようなバリアは、主に言語そのものでなく、それによって表わされる思考方法の相違を考慮せずに文章を解釈しようとした結果である。

英語を学ぶ大学生にアンケート調査を行ない、どのような構文において彼らが理解に困難を感じているのかを調べてみた。その結果、殊に、否定の入った文章（特に複文構造の否定文）、接続詞の入る複文、否定疑問文に対する答え方などに意味の取り違えがあり、加えて、解釈に時間を要するなどの弊害が見られた。日本語的思考で英文を解釈し、英語における文頭の重みをつい軽視し、否定語、もしくは、接続詞を見逃してしまう嫌いがある。英文を聞いている際に、間違った解釈をしたり、読んでいる場合に、文末にたどり着いて再度文章を読み直し、リーディングの効果を著しく低下させたりもしている。

本発表では人間の思考形態に影響を及ぼすいくつかの言語構造に焦点を当て、日本語と英語との対比において、それが日本人、英米人の思考、論理形態にどのように作用しているかを具体例を示しながら考察する。そして、英語的思考方法を考慮に入れたアプローチが具体的にどのように実践されるかについても考察を加えたい。

(付記) 参考文献は当日配布いたします。